

## <音楽科>

# 自分の「思いや意図」をもって表現を工夫する子の育成

～表現と鑑賞の往還の中で、学習のつながりを実感し必要感をもって学ぶ音楽科学習の在り方～  
多治見市立滝呂小学校 教諭 江崎 紀子

### 概要

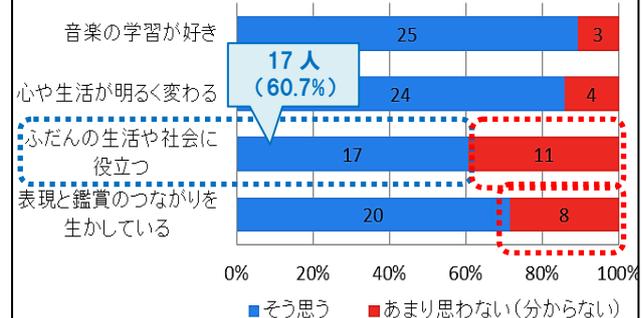
本研究は、**表現と鑑賞の往還**の中で児童が**学習のつながり**を実感し**必要感**をもって学ぶことによって、**自分の「思いや意図」**をもって**表現を工夫**していく音楽科学習の在り方を追究し実践した記録である。表現に苦手意識をもつ児童がいる実態と、自己表現の意欲が高まり仲間と協力して工夫する活動を好む中学年の特性を踏まえ、もっと児童主体で学びが生まれ**表現を工夫**する姿を目指したいと願った。「音楽の学習をすれば、ふだんの**生活や社会**に出て役立つ」という質問に対し「そう思う」と答えた児童が全国で47.7%、学級児童でも60.7%と低いことから、音楽科の学習で培われる音楽の力(=目に見えないものを感じ捉える力)がどんなことに役に立つのか、自分の**生活や社会**につながっていないことに原因があると思われる。**自分の「思いや意図」**を明確にするためには、学ぶ**必要感**と様々な**学習のつながり**の実感が有効である。仲間と共に表現を工夫する楽しさを実感し、**自分の「思いや意図」**をもって表現する喜びを感じながら、音楽でこそ培われる力音楽の力を**生活や社会**に役立てていこうとする姿に着目し、本研究をまとめた。

### I 主題設定の理由

平成27年2月に公表された質問紙調査(※資料)で「音楽の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対し「そう思う」と答えた児童が47.7%と各教科の中で最低であった。中央教育審議会の芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめでも、音楽科の課題として「授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのか…(中略)…教員としても、子ども達の意識としても弱いのではないか」という指摘がなされている。音楽を学ぶ意義を見直すべき重要な結果だと捉える。一方で「音楽の学習をすると心が豊かになる」という質問に対しては78.9%の児童が「そう思う」と答えている。音楽は人の心を動かすという魅力を十分感じながらも、音楽科の学習で培われる音楽の力(=目に見えないものを感じ捉える力)がどんなことに役に立つのか、自分の生活や社会につながっていないことに原因があると思われる。

資料1は今年度担任学級で実施した調査結果である。本学級においても「そう思う」と答えた児童は60.7%と低かった。「音楽が好き」という児童でも「どこで役立つのか分からない」「表現と鑑賞のつながりを考えない」という回答が見られた。

音楽の学習に対する意識調査(2017年4月)



【資料1：質問紙調査結果(3年生4月)】

「音楽は苦手」と感じるAさんは「自分を表現する音楽は恥ずかしい」「音楽は生活や社会には役立たない」と答えた。また「音楽は好き」と感じるBさんは「歌は楽しい。でも表現と鑑賞のつながりは考えない」と答えた。発表会等の表現工夫のために知識や技能を先に身につける学習展開がよく見られるが、そこに児童の「思いや意図」が存在しなければ学校で音楽を学ぶ意義に疑問を感じる。児童の「こう歌いたい」という願いを実現するために表現と鑑賞の学習が往還され、表現を工夫するために知識や技能が活用されることで、音楽科の有用性・必要感を実感できると考える。

そこで今年度は、児童が自分の思いや意図をもって表現を工夫する姿を願い、本主題を設定した。

## II 研究仮説

### 1 <研究の目標>

この研究を通して明らかにしたいことは、自分の「思いや意図」をもって表現を工夫しようとする学びの出発点となる主体的な気持ちは何を「きっかけ」として生まれるかということである。

本研究では、表現と鑑賞の往還の中で、あらゆる学習のつながりへの意識（外に広がる面）、必要感をもって自分の表現に生かす意識（内に向かう面）の両面において学びが深まる瞬間を探っていきたい。

また中学年は、自己表現の意欲が高まり音楽表現を仲間と協力して工夫する活動を好む傾向がみられる時期である。その特性を踏まえ、仲間との深め合いの中で意欲を高められるようにしたい。そして音楽の学習を生活や社会につなげて生かしていこうとする気持ちを育てたい。

具体的には、Aさんの音楽の苦手意識がなくなり、自分の思いを表現する喜びを感じられる姿、Bさんが表現と鑑賞のつながりを生かして自分の表現を工夫する姿である。そして学級的全児童が音楽の学習に対する有用性と必要感を実感し、生活や社会に役立てていこうとする姿を目指したい。

### 2 <研究仮説について>

そこで、次のような仮説を立てた。

表現と鑑賞の往還の中で、

- (1) 学習のつながりを実感する音楽科学習
  - (2) 必要感をもって課題追究する音楽科学習
- この2点を重点に置き実践を進めれば、自分の「思いや意図」をもって表現を工夫する子が育つ。

## III 研究内容

研究仮説を実証するために、以下の方法・手立てを取り入れた研究内容を実践していく。

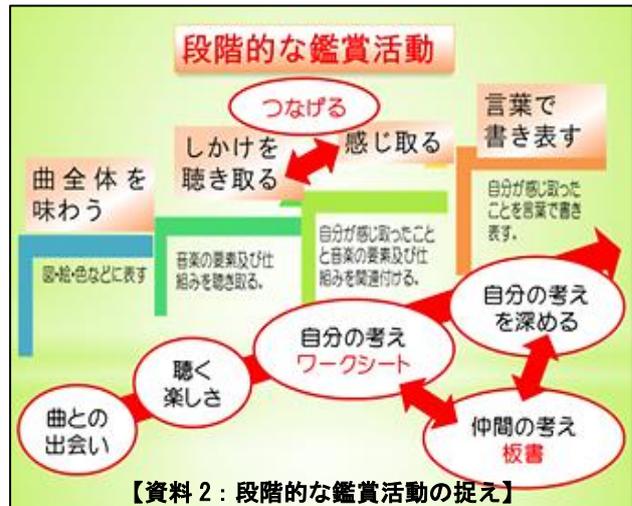
### (1) 学習のつながりを実感する音楽科学習

- ① 表現と鑑賞が往還する学習のつながりを実感するマインドマップ型の題材足跡カードの活用
- ② 自分の伸びを実感する場（自主学習・学級通信・朝の歌）や、他教科（道徳・学活等）との学習のつながりを生かした音楽科の学習を支える場の活用

### (2) 必要感をもって課題追究する音楽科学習

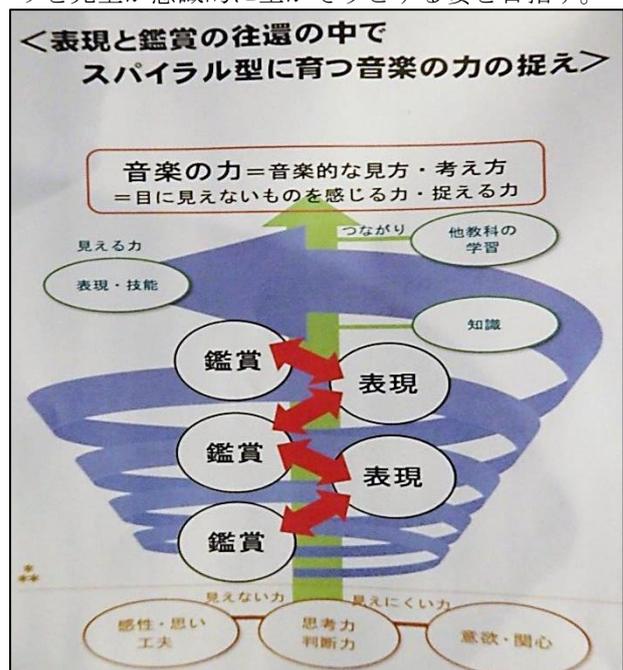
- ① 3つの評価（自分・仲間・教師）を取り入れた学習カードの活用と課題追究型の学習活動
- ② 表現の工夫に対する必要感と自分の「思いや意図」を明確にもつための映像・録音の鑑賞

資料2は昨年度の研究「児童の能動的な鑑賞活動」における段階的な鑑賞活動の捉えである。



研究結果から、知覚と感受の「つながり」を意識した学習は自分の考えを深めるために有効であることが分かった。それと同時に、知覚と感受という一見正反対に感じられがちなものが学習の中でつながると分かった場面や、鑑賞での学びを表現の工夫に生かすことができると分かった場面での児童の知識や技能の深まりが大きかった。

表現と鑑賞は、資料3のようなスパイラルの形で往還される中で音楽の力が育っていきと捉える。そこで今年度は、この表現と鑑賞の学習のつながりを児童が意識的に生かそうとする姿を目指す。



IV 実践

1 研究内容(1)①に関わって

<実践例その1>

【題材「旋律の特徴を感じ取ろう」

「あの雲のように」表現→鑑賞

資料4は題材「旋律の特徴を感じ取ろう」の表現と鑑賞の往還の中で育つ音楽の力の捉えである。



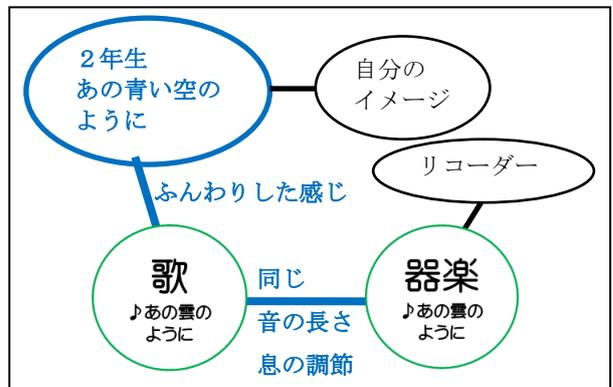
【資料4：題材「旋律の特徴を感じ取ろう」  
表現と鑑賞の往還の中で育つ音楽の力の捉え】  
→資料4参照

表現と鑑賞が往還する学習のつながりを実感するために、可視化することで思考を整理できるマインドマップ(=トニーブザン提唱の放射線状に関連事項をつなげた思考の可視化)が有効であると考えた。そこで、資料5のようなマインドマップ型の題材の足跡カードの活用を取り入れた。



【資料5：マインドマップ(学習カード)】  
→資料5参照

マインドマップは、すでに国語科「春の楽しみ」「夏の楽しみ」で4月から取り扱ってきており、児童にとって親しみやすいものである。既習と本時の学習のつながりを意識することで題材のねらいを達成するための自分の課題が明確になる。また課題解決のために活用する知識、目指す技能が何か一目で理解でき、自分の「思いや意図」をもって表現の工夫をするための元となる足跡が残る。このマインドマップの活用では、「あの雲のように」の歌唱と器楽の表現の工夫の学習場面において、既習の学習をつなげて表現の工夫に生かそうとする姿がみられた。児童が「あの雲のように」の学習でマインドマップに書き込んだ思考・判断の足跡を整理すると資料6のようになる。



【資料6：「あの雲のように」における  
児童の思考・判断を表したマインドマップ】

マインドマップを活用したことで、前学年や既習内容と結び付けて表現の工夫に生かそうとする発言が見られるようになった。

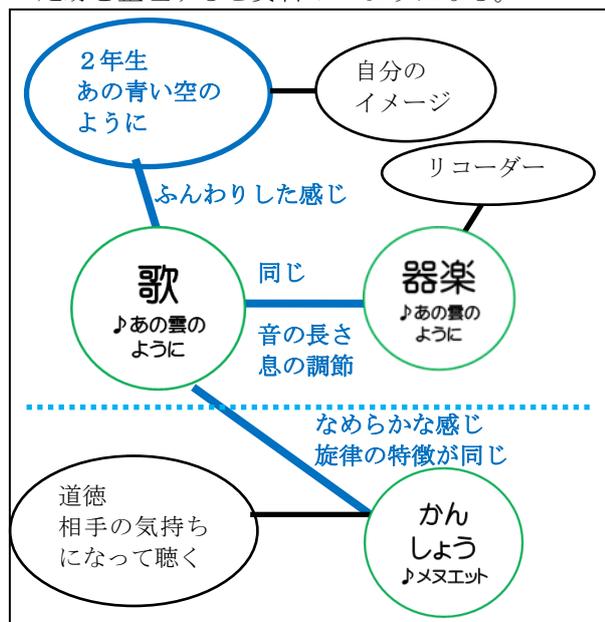
- 児童の発言より—
- 【下線は既習とつなげ表現の工夫に生かす思考・判断】
- ふんわりとした感じが、2年生で学習した「あの青い空のように」と似ているね。だからあの時の高い音を頭の上から響かせた歌い方を思い出すとよさそう。(知識・技能面)
  - のびのびとしたなめらかな歌声にするために息をいっぱい吸ったら音を長くのばせた。音の長さを考えてリコーダーでも歌と同じように息を調節するとよさそう。(共通事項と関わる音楽的な見方・考え方)
  - 旋律の特徴に合った表現になるよう、旋律の上がり下がりを手で表現したら声を飛ばす方向がよく分かった。リコーダーでも音色を響かせる方向をイメージすると音が響いてなめらかな感じになりそう。

<実践例その2>

【題材「旋律の特徴を感じ取ろう」

「メヌエット」表現→鑑賞→表現

「メヌエット」は、**ア**と**イ**の旋律の特徴の違いを聴き比べ、知覚と感受を関連づけながら曲のよさを味わう学習である。児童が「メヌエット」の学習でマインドマップに書き込んだ思考・判断の足跡を整理すると資料7のようになる。



【資料7:「メヌエット」における児童の思考・判断を表したマインドマップ】

資料は児童が書き込んだマインドマップである。既習内容だけでなく他教科や道徳の学びとのつながりを表現の工夫に生かそうとする姿がみられた。



【資料8: 児童のマインドマップ】

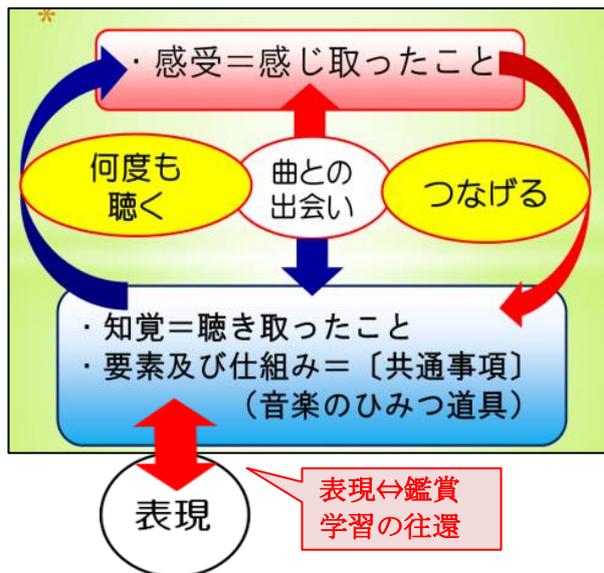
また鑑賞の学習後に「あの雲のように」をもう一度演奏したいという児童の声を元にみんなで演奏をすると、旋律の動きを図や手で表しながら旋律の特徴を生かした演奏をする姿がみられた。

一児童の発言より一

【下線は既習とつなげ表現の工夫に生かす思考・判断】

- 音の上がり下がりの動きが少ないと、なめらかな感じになるんだね。だから「あの雲のように」も旋律の動きが少なくてふんわりやさしい感じだったんだね。
- 3拍子だから「あの雲のように」と同じでなめらかな感じ。でも旋律の上がり下がりが少ない**ア**から**イ**になって旋律の上がり下がりが激しく細かく動くと、はずんだボールのような感じに聴こえるね。
- 鑑賞は道徳の「心と心の握手」で学習したみたいに、演奏する側の気持ちになって考えると、「こんな気持ちを伝えたかったんだ」ってよく分かるね。**ア**はゆれて楽しい感じで**イ**は楽しくなって踊りが激しくなっていく感じ。だから旋律の特徴が変わったんだね。
- 「メヌエット」の**ア**みたいに「あの雲のように」の旋律の動きを図にしたらうまく演奏できそう。

資料8は、鑑賞における知覚と感受のつながりを表したものである。この鑑賞での学びが表現に往還されることで、鑑賞での自分の知覚と感受の深まりをさらに表現で実感することができた。



【資料9: 鑑賞における知覚と感受のつながり】



【資料10: リコーダーで表現の工夫をする児童の様子】

## 2 研究内容(1)②に関わって

### <実践例その3>

#### 【自主学習・学級通信・朝の歌とのつながりを生かした音楽科の学習を支える場の活用】

音楽科の学習を支える自主学習の場を活用することで、基礎的な知識・技能の確実な定着を図り、児童の表現の工夫の土台作りをした。3年生の題材「リコーダーとなかよしになろう」は、初めて出会った楽器の音色の美しさに憧れをもちながらリコーダーに親しみ基本的な演奏の仕方を身につける学習である。新しい楽器への抵抗感をなくすため、「リコーダーの歌」や「名人ノート」を作成した。かまえ方・穴のとじ方・音の出し方の3つを、旋律にのせて歌いながら楽しく身につけられるようにした。6月の参観日でも「リコーダーとなかよしになろう」を授業公開し、保護者と共に児童の表現を支えていく環境作りをした。



【資料11：リコーダーの歌・名人ノート】 →資料11参照

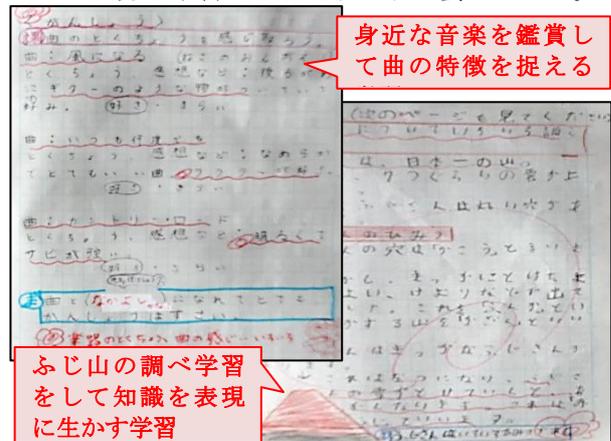
参観日後、「シラソだけでおしゃべりできたよ。」「おじいちゃんが笑点の歌が好きだから吹けるように練習したよ。喜んでくれたよ。続きを演奏したいな。」「ピタゴラススイッチを演奏する時、はねる感じにしたいけど、息をどうするといいかな。」と、児童の中でたくさんの「こう表現したい→そのためどんな工夫をするといい?」と学ぶ「必要感」が生まれ始めた。家庭や休みに自主学習をする姿が、学級通信等において価値づけよさを広げた。



【資料12：学級通信における音楽の学習の紹介】

→資料12参照

保護者の声を積極的に取り入れることで児童の音楽の表現に対する意識を高めていった。また仲間の自主学習を学活や学級通信等で紹介すると、よさを自分の学習に生かそうとする姿がふえた。



【資料13：自主学習における音楽の学習の高まり】

→資料13参照

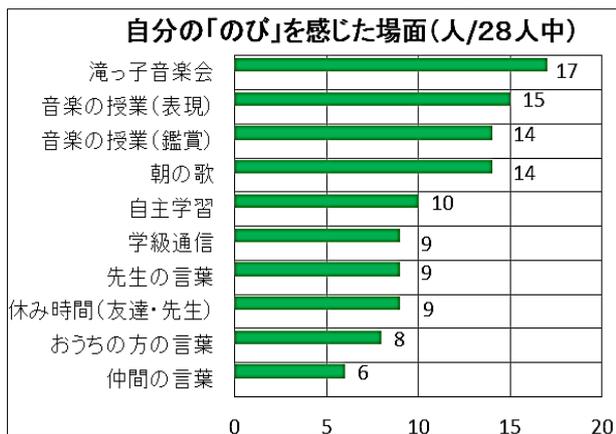
また、朝の歌は音楽の学習の中で学んだことを生かす一つの間であるとして児童に示した。すると「旋律の特徴を感じ取ろう」の学習をした後、朝の歌の表現を工夫する姿が出てきた。「メヌエットの鑑賞でやってみたくに旋律の動きを手で表すと上がり下がりがよく分かるよ。」「ふじ山の表現でやってみたくに、まず曲の山を見つけよう!」「あの雲のようにみたいに、イメージをもてるように書こう!」等。日々の生活の中にある音楽と、音楽の学習をつなげて表現を工夫することができた。

児童の変容として、AさんもBさんも自主学習の中で音楽の学習に取り組む姿がみられた。Aさんはリコーダーの運指を書き出し自分の思いを書き加えていた。Bさんも自分が演奏して気付いたことや感想を書き加え、表現の工夫のための基礎となる土台を自主学習の中で進めるようになった。



【資料 14：朝の歌で旋律の動きを捉えて歌う様子】

以下のアンケート結果からも、滝っ子音楽会（全校の音楽交流会）等の行事や授業だけでなく、自主学習・朝の歌・学級通信とのつながりが、自分の「のび」を感じるきっかけとなったことが分かった。



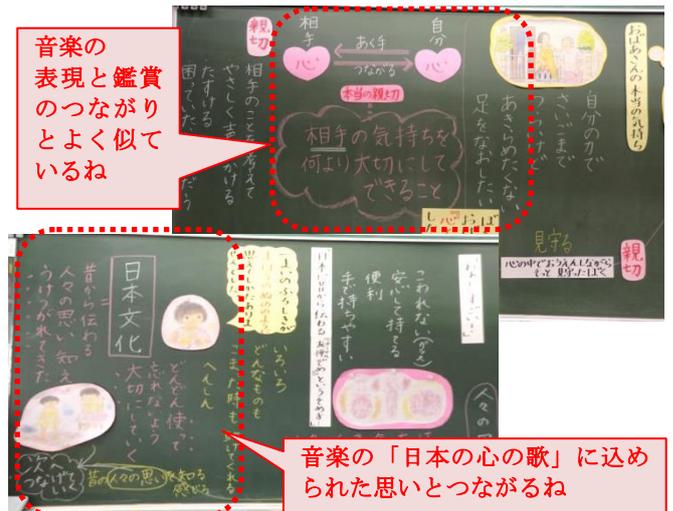
【資料 15：音楽の学習に対する自分の「のび」を感じた場面】

#### <実践例その4>

【他教科（道徳・学活等）との学習のつながりを生かした音楽科の学習を支える場の活用】

「音や音楽のように形がなく見えないものを感じ捉える力」は、道徳などで学ぶ「人の心を捉える力」と深くつながる。演奏する人⇄聴く人という関係は、表現と鑑賞の関係とも言える。

そこで、音楽の「日本のこころの歌」（うさぎ・ふじ山）は、3年生道徳の「日本文化（ふろしき）」、社会科の「昔の暮らし」、国語科の「俳句・短歌を楽しもう」等の学習との関連を図った。



【資料 16：道徳「ふろしき」「心と心の握手」の板書】

また、表現と鑑賞の往還という関係性においては、家庭と学校の連携で取り組む11月～12月の人権運動の期間を活用して、参観日の道徳授業公開や学活の「ぼかぼか言葉を増やそう」の取り組みとの関連を図った。すると、道徳の振り返りで「人の心を大切にすることは、演奏を大切に聴くことと同じ」「相手の心に届けようとする気持ちが音楽と同じ」と音楽と道徳の学習をつなげて考える感想が出てきた。他にも「ふじ山」の学習の時に家から持参した本を仲間と見せ合ったり、図書館で新たに借りて調べようとしたりするなど、自分達で曲のイメージを膨らませる姿がみられた。児童の意欲の高まりは、個人懇談や参観日の機会を活用し保護者にも伝わるようにした。



【資料 18：個人懇談の場を生かした音楽の学習の保護者への紹介】→資料 18 参照

#### —結果の考察—

##### 研究内容（1）①②に関する実践について

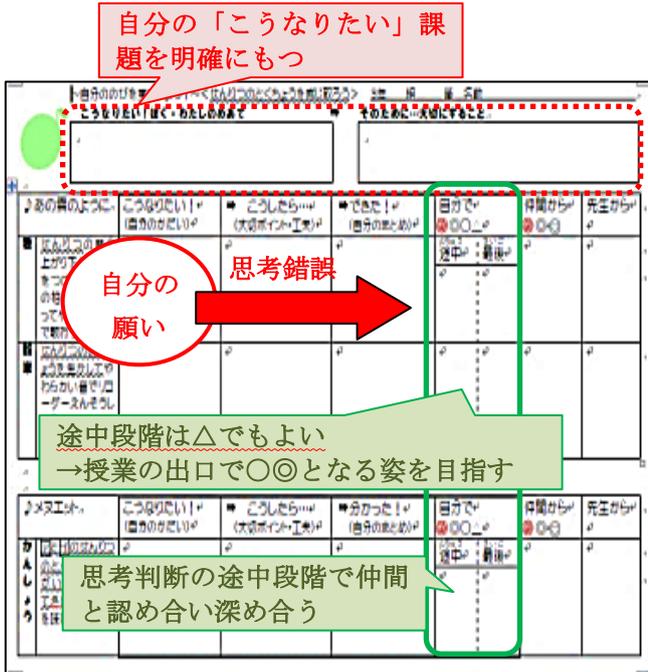
- ・マインドマップの活用は、表現と鑑賞のつながりを表現の工夫に生かす考えの元となった。
- ・音楽科の学習を支える場と関連を図ることで、児童の音楽に対する意欲・関心につながった。

### 3 研究内容(2)①に関わって

#### <実践例その5>

#### 【3つの評価(自分・仲間・教師)を取り入れた学習カードの活用】

自分の「思いや意図」を元にした表現の工夫になるよう、試行錯誤している段階の思考を残していける学習カードを活用し、「こうなりたい(自分の願い)→こうしたらどうだろう(思いや意図)」と表現に対する課題を明確にもてるようにした。



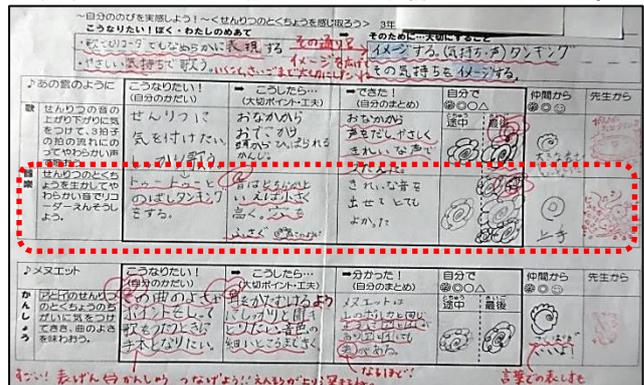
【資料19: 学習カード】→資料19参照

学習の深まりがさらに明確になるよう、個人内評価(自己評価)と客観的評価(他者評価)両方の立場を取り入れた。そして3つの評価(自分・仲間・教師)の見方によって自分の表現を高めていけるようにした。

また、今年度本校の算数科で研究している「個人追究→ペアまたは3人チーム→全体交流」という深め合いの学習活動を音楽科の授業にも取り入れた。個人追究で確実な答えを持つ必要はなく、思考・工夫の途中で難しさも残る段階での交流が有効である。「ここまでできたけど、この部分に分からない。」と、学校でこそその仲間との深め合いによって児童の学びがより確かなものになると考えるからである。これらの学習活動によって、途中段階でも安心して「難しい」「まだ途中」であることを仲間と持ち寄って試行錯誤していく学習の展開を大切にしたい。

すると、「あの雲のように」のリコーダーの表現の工夫の場面では、チームやペアの子同士で「やさしい感じにしたいから息の調節をする」といいと思うけど、どうやればいい?」「私はシャボン玉を膨らませるイメージで息をそっと吹いたらできたよ。」「イメージって大切だね!」と表現の工夫を深め合っていた。

資料20は児童が書き込んだ学習カードである。



【資料20: 児童の学習カード】→資料20参照

「あの雲のように」のリコーダーの表現の工夫の場面で「旋律の特徴を生かしてなめらかな感じにしたい→だから音をのぼしてタンギングで切る」という自分の「思いや意図」をもち、仲間と交流した途中段階で「音は小さく高く響かせるイメージ」にも気付き、「→きれいな音色を出せてよかった」と自分のまとめを書いていた。個人内評価の自己満足でなく、確かに自分の音に耳を傾けてくれる仲間・教師の評価を通して自分の表現の高まりを実感することができた。



【資料21: ペアで聴き合う児童の姿】

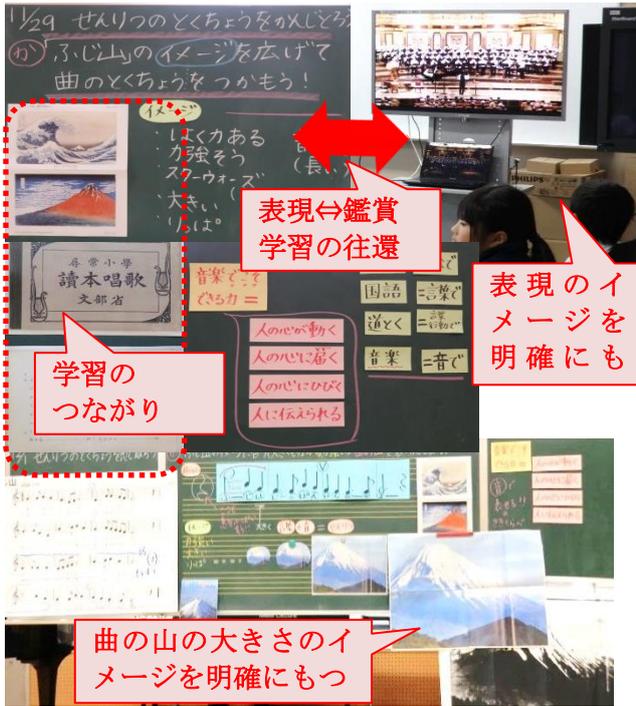
#### 4 研究内容(2)②に関わって

##### <実践例その6>

##### 【必要感と自分の「思いや意図」を

##### 明確にもつための映像・録音鑑賞「ふじ山」】

「ふじ山」では、児童が表現の工夫に必要感をもって臨めるよう、演奏の録音聴取や映像鑑賞の場を取り入れた。すると、工夫したい所が明確になり発言や表現の工夫に深まりがみられた。



【資料 22 : 「ふじ山」の映像・録音鑑賞、板書】

##### —「ふじ山」の授業より—

(事前に歌声を録音しておく)

(富士山の映像や様々な合唱団の歌声を鑑賞)

S : すごい！こんなにきれいなんだね。立派！迫力！  
S : 頂上の景色も美しい。だから日本人たちは富士山を大切にしたいと思って歌にしてきたんだね。

T : (自分たちの歌声を聴いて) どうだった？

S : 全然だめ。曲の山が小さくて砂山くらい。映像だと富士山はすごく高くてきれいで昔から日本の象徴。もっと曲の山が感じられるように表現したい。

S : 大きく盛り上げたつもりが聴いたら全然伝わらなかった。「おかしなすきな魔法使い」みたいに少し前の旋律からどんどん大きくしていくといい。

S : 映像で見たイメージで歌うと歌で表現できる。

S : あの雲のようにみたいに「ふ〜じは」で手で大きく山を作れば。一番伝えたいのが「ふじは日本一の山」旋律も上がっているからここが曲の山。

(表現の工夫後の歌声を再度聴いて)

S : 曲の山が見えた！音の大きさや旋律の動きに気を付けたら本当にイメージは音に表せるんだね！

映像・録音鑑賞を生かして授業の出口で再度聴いた歌声を聴いて児童全員が「最初の歌声と全然違ってすごくよくなった！」という感想をもち、自分たちの歌声の変化を喜び、達成感を味わうことができた。映像鑑賞でイメージを膨らませたことが「こう歌いたい」という思いを生み出し、歌声の録音鑑賞で自分たちの歌声を客観的に聴いたことが、「もっと曲の山を表現するために…こうしたらいい」と、音楽的な見方・考え方でどこをどのように工夫したいか「思いや意図」を明確にもつことにつながったと考える。

題材の技能テストは、ただのテストではなく今までの児童の表現の工夫を生かして発表し合う「演奏会」という形にした。「あの雲のようにふんわり演奏会」「ふじは日本一の山演奏会」などと命名し、表現⇔鑑賞の場になるようにした。



【資料 23 : 演奏会(テスト)で表現⇔鑑賞する姿】

→資料 23 参照

リコーダーの音の動きをカタカナ表記のドレミで確かめたり、教科書を見て音を確かめながら歌ったり自分で選ぶ形で児童のつまずきをなくし、自信をもって表現できる場となるようにした。

AさんBさんも、児童全員が恥ずかしがらずに仲間前で堂々と、自分なりの表現の工夫をしながら歌うことができた。

##### —結果の考察—

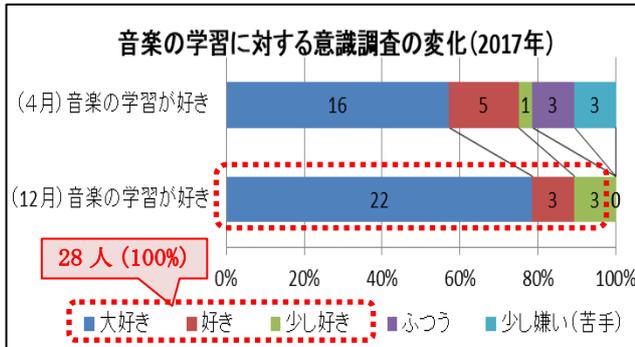
##### 研究内容(2)①②に関する実践について

- ・3つの評価や映像・録音を取り入れた学習活動は、児童の「必要感」をもって課題追究する音楽科学習につながった。

#### IV 成果と課題

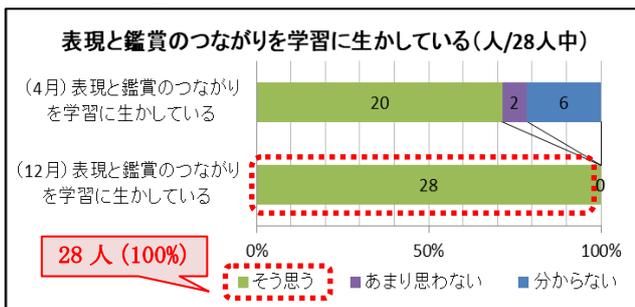
##### 1 <研究のまとめ>

3年生の12月に調査した児童へのアンケート結果は以下の通りである。AさんBさん他、学級的全児童が「音楽の学習が好き」と感じ、音楽の学習に対する意識の変化がみられた。



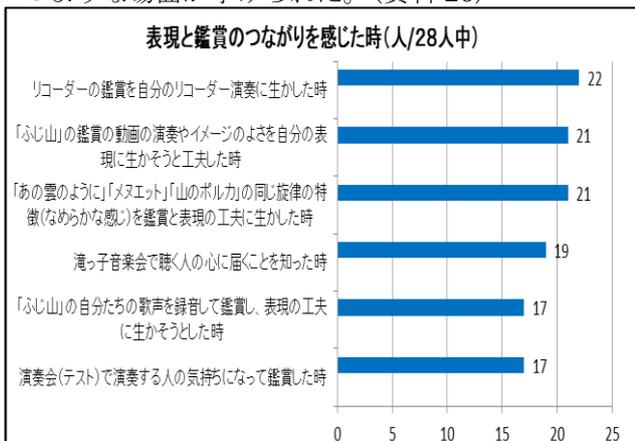
【資料 24: 音楽の学習に対する意識調査の変化】

この研究で大切にしてきた「表現と鑑賞のつながりを学習に生かしているか」という質問に対し「そう思う」と答えた児童は100%であった。



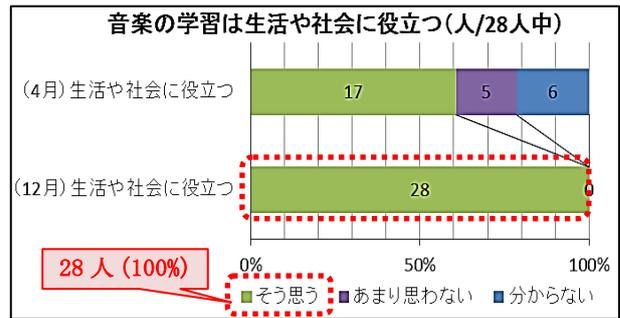
【資料 25: 表現と鑑賞のつながりについて】

表現と鑑賞のつながりを感じた時について以下のような場面が挙げられた。(資料 26)



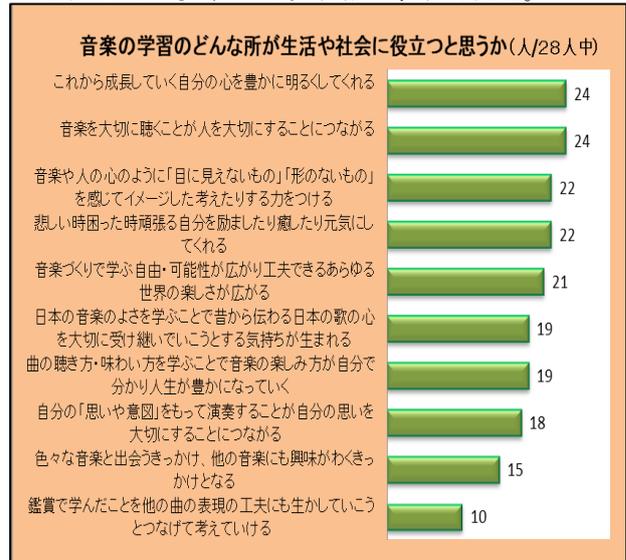
【資料 26: 表現と鑑賞のつながり感じた時】

そして結果として一番願った「ふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対し「そう思う」と答えた児童が100%であった。(資料 27)



【資料 27: 音楽の学習は生活や社会に役立つ】

理由として以下のような点が挙げられた。



【資料 28: 音楽の学習が生活や社会に役立つと思う所】

焦点を当てた児童についても変化が見られた。

Aさんは「音楽の学習は自分の思いを表現して相手を笑顔にできるから好き、人前で歌うことも恥ずかしくない」という気持ちに変わった。実際にテスト(演奏会)の場でも堂々と演奏し、その後も「自信がついた。次は歌でもっとうまく表現したい」という前向きな気持ちをもてた。

##### —Aさんの音楽の学習の感想より—

<音楽の学習が好きな理由>

・音楽は人をうれしくする力があると思う。みんなの気持ちがあれしくなることを知った。

<心が豊かになると思う理由>

・みんなの顔が笑顔になって自分ももっとやりたいと思う。

<明るく楽しい生活ができるようになると思う理由>

・心や体がはずんでうれしくなると思うから。

<ふだんの生活や社会に役立つと思う理由>

・これから大人になって歌う時にうまく表現できるから。

さらに、ふだんの生活面においても大きな変化が見られた。今まで自分から友達を誘わなかったAさんが、悲しそうな子がいたら「一緒に遊ぼう」と声をかける姿があった。相手の気持ちに立って「自分だったら…」と物事をつなげて考え行動するようになり、自分の表現が相手の喜びを生むと

いう実感が、道徳の学びも経てふだんの生活につながった。音楽の学習の感想や日々の作文からもその変化が読み取れる。

#### —Aさんの作文より—

<4月>

・クラスには色々な性格の違った子がいる。友達とうまくいかないことがたくさんある。

<6月>

・参観日の音楽の授業。前に出るのが苦手だから早く始まって早く終わらないかなと思った。みんなは一生懸命歌っていてすごいなと思ったけど自分は歌えなかった。家族が自分のことを見に来てくれたのに悲しい嫌な思いをさせてしまった。今度は見てくれる人を喜ばせたい。

<7月>

・最近好きな勉強が増えた。音楽のリコーダーで小さな花という曲ができるようになってうれしかった。音楽はほとんど苦手でもできなかったけれど練習したら吹けるようになった。何でもやってみなければできないと思った。

<10月>

・音楽会に向けて頑張りたいこと、一つ目は笑顔。にっこりみんながうれしくなるような笑顔で歌いたい。とにかくうれしいことが相手の心に残るようにしたい。

<10月>

・音楽会で頑張ったことは、笑顔とリコーダー。色々なことがあったけど、自分たちの演奏が成功してとてもうれしかった。

<11月>

・最近言ったばかばか言葉は、一人ぼっちの子に「一緒に遊ぼう」と言ったこと。友達も笑顔になってくれて自分もうれしかった。言ってよかった。言われたばかばか言葉は、自分が悲しい時に「大丈夫？」と友達が言ってくれたこと。その時友達は、自分が悲しそうだから声をかけてくれたと思う。そのことで悲しいことをほとんど忘れることができた。ばかばか言葉は、自分も相手もうれしくなる「まほうの言葉」だと思う。

またBさんも、「音楽の学習は大好き」「鑑賞したことが自分の表現に生かせるつながりがある」という気持ちに変化した。鑑賞した曲と自分が表現したいことを比べ似ている部分を表現の工夫に生かそうとする姿がよく見られるようになった。自主学習や作文の中でも「～で聴いた〇〇の部分と〇〇の部分の似ているから…」と学習をつなげて考える姿がふえた。音楽の学習の感想からも、表現と鑑賞の中で様々なつながりを自分で模索していこうとする姿が読み取れる。

#### —Bさんの音楽の学習の感想より—

<音楽の学習が好きな理由>

・みんなで歌ったり演奏したりすることが楽しいから。

<心が豊かになると思う理由>

・他の子の演奏や話を大事にきく力がつくと思うから。

<明るく楽しい生活ができるようになると思う理由>

・鑑賞の力を使って音楽を楽しむ力がつくと思うから。

<ふだんの生活や社会に役立つと思う理由>

・世界の色々な音楽に親しめるかもしれないから。

その他の児童の感想からも、「学習のつながり」や「表現と鑑賞を生かし合い」のよさを多くの児童が感じていることが分かった。

#### —音楽の学習に対する児童の感想より—

- ・音楽は人をうれしくする力があると思う。みんなで音楽をやるとみんなの気持ちがうれしくなることを知った。(Aさん)
- ・他の子の演奏を聴いて自分の演奏に生かすのが楽しかった。(Bさん)
- ・音楽は色々なつながりがあると思った。
- ・分からないことがあったら音楽が助けてくれたので、音楽が大切だということが分かった。
- ・鑑賞で聴くことと、道徳で学んだ人の話を大切に聞くことは似ている。
- ・学校で音楽の学習をすれば、小さい時に分からなくても大人になってから自分の音楽に生かせる。
- ・鑑賞の力を使って表現の力を身につけていける。
- ・音楽で感じたことを表現できるようになれば、大人になっても自分から進んで発言できる。
- ・音楽は人の心を明るく穏やかにしてくれるもの。

このように、あらゆる学習のつながりに対する意識(外に広がる面)、必要感をもって自分の表現に生かす意識(内に向かう面)両面で深まりが見られた。

この研究を通して、自分の「思いや意図」をもって表現を工夫する子を育てるために、研究内容(1)(2)のような学習のつながりや必要感を実感する音楽科の学習が有効であることが分かった。

## 2 <成果と課題>

### <成果>

- 表現と鑑賞の往還のイメージを視覚化して広げるマインドマップの活用は、表現と鑑賞の様々な「学習のつながり」を自分の表現の工夫に生かすための「音楽的な見方・考え方」の元となった。
- 自分の伸びを実感する場(自主学習・学級通信・朝の歌等)や、他教科(道徳・学活等)との学習のつながりを生かした音楽科の学習を支える場との関連を図ることは、ふだんの生活や社会に役立てようとする気持ちを生み出した。
- 3つの評価(自分・仲間・教師)や映像・録音を取り入れた学習活動は、児童の学びの出発点となる「思いや意図」が明確になり、「必要感」をもって課題追究する音楽科学習につながった。

### <課題>

- ▲表現と鑑賞の往還の中で「音楽的な見方・考え方」を育てていく授業の在り方をさらに追究していく。

これからも、表現と鑑賞の往還の中で「音楽的な見方・考え方」を育てていく授業の在り方をさらに追究し、学校で音楽を学習する意義を児童と共に問い続けながら実践を積み重ねていきたい。

## V 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 音楽編
- ・小学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント
- ・小学校 新学習指導要領 ポイント整理 音楽 (東洋館出版社)(山下薫子著)
- ・音楽の授業で大切なこと (東洋館出版社)(中島寿著・高倉弘光著・平野次郎著)